

開催日	2022年10月22日(土)
開催時間	13:30～16:50
名称	海洋底掘削による資源・エネルギー開発の現状と課題 ～資源探査・開発から読取れる日本の状況と今後～
主催	公益社団法人 日本技術士会 神奈川県支部
開催場所	Web 中継のみ
行事内容	講演会
参加人数	61名

内容

講演概要

【講演1】「高知コア研究所の海洋掘削コアの保管・管理およびその先端的研究」

講師： 国立研究開発法人 海洋研究開発機構 超先鋭研究開発部門(高知コア研究所) 研究所長
廣瀬 丈洋 氏 (博士(理学))

高知コア研究所は、地球深部探査船「ちきゅう」をはじめとする掘削船により海洋底から採取された地質コア試料の保管・管理、それらを用いた先端的研究までを一貫して行う中核研究拠点である。海洋掘削コア試料には、太古から現在までの気候変動、生命活動、地殻変動といった地球の成り立ちを紐解くための痕跡が鮮明に記録されている。本講演では、高知コア研究所の概要を説明するとともに、2つの国際地震断層掘削プロジェクト(東北地方太平洋沖地震調査掘削および南海トラフ地震発生帯掘削)によって採取された掘削コア試料から明らかになってきた巨大地震発生の仕組みと、今後の展望について紹介された。

【講演2】「産総研における表層型メタンハイドレートの研究開発の取り組み」

講師： 国立研究開発法人 産業技術総合研究所 エネルギー・環境領域 総括研究主幹
天満 則夫 氏 (博士(工学))

次世代のエネルギー資源として期待されているメタンハイドレート(以下、MH)の研究開発が国主導で進められている。このMHは砂質堆積層の孔隙中にMHが賦存する「砂層型」と、主に日本海側の海底面付近に存在する「表層型」の2種類があり、産業技術総合研究所では、経済産業省からの委託事業として、「砂層型」の研究開発にも取り組んできたが、新たに「表層型」の研究開発にも取り組んでいるところである。具体的には、2013年度から開始した資源量把握のための調査に引き続き、回収・生産技術や環境影響評価も含めた研究開発に2019年度から取り組んでいる。本講演では表層型MHの研究開発に関するこれまでの取組に関して報告された。



廣瀬

講演1： 廣瀬 丈洋 氏



天満

講演2： 天満 則夫 氏